

# 派遣留学生帰国報告書

\* 帰国(復学)後の情報を入力してください

記入日	2019/2/28
所属学部・ 研究科・学府	園芸学部
所属学科・専攻	園芸学科

## 1. 留学先について

留学先大学名	ボローニャ大学											
留学先所属学部等	農獣医学部											
留学期間	出発日	2017/9/20	入学日	2017/9/23	修了日	2018/2/8	帰国日	2018/2/11				
住居	大学(紹介)の寮・アパート	<input type="radio"/>	民間アパート	<input type="radio"/>	その他( )							
	通学時間	30分					On campus					
	通学方法	徒歩、バス										
	居室スペース	<input type="radio"/>	個室	( )	人部屋	その他( )						
	共有スペース	<input type="checkbox"/>	完全個室	<input type="checkbox"/>	キッチン	<input type="checkbox"/>	トイレ	<input type="checkbox"/>	バス	<input type="checkbox"/>	リビング	<input type="checkbox"/>
食事	自炊	80 %	学食	10 %	外食	10 %	その他	( ) %				
保険	海外旅行保険(名称)	AIU損害保険										
	派遣先大学指定の保険(名称)	実験・研究用の保険(名称はわかりません)						<input checked="" type="checkbox"/> 強制加入				
	その他											
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)											
	成田 ⇄		モスクワ(飛行機)			⇄ ボローニャ(飛行機)						

## 2. 留学にかかった費用について

総費用	95万 円								
出どころ									
自費	<input type="checkbox"/>	貯金	円	<input type="checkbox"/>	アルバイト	8万 円	<input type="checkbox"/>	その他	円
援助	<input type="checkbox"/>	両親	39万 円	<input type="checkbox"/>	家族・親戚	円	<input type="checkbox"/>	その他	円
奨学金	<input type="checkbox"/>	JASSO	48万 円	<input type="checkbox"/>	その他名称( )		<input type="checkbox"/>		円
その他	<input type="checkbox"/>	千葉大学助成金	円	<input type="checkbox"/>	その他( )		<input type="checkbox"/>		円

## 2-1. 財政管理の方法

渡航時	<input type="radio"/>	現金	5万 円	その他( )	円
留学中		海外送金	<input type="radio"/>	キャッシング	その他( )

## 2-2. 各費用の支払い方法

大学に払った費用	現金
住居にかかった費用	現金
その他	

## 2-3. 内訳

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)			99,210	円
海外旅行保険			101,880	円
OSSMA			16,378	円
査証・在留許可証	€	196	28,616	円
住居	€	3,000	438,000	円
食費	€	1,200	175,200	円
通学に要する交通費	€	150	21,900	円
教科書、教材費				円
その他大学に支払った経費	€	30	4,380	円
光熱費		住居費に含まれています		円
その他 ( 観光 )	€	500	73,000	円
その他 ( )				円
その他 ( )				円
その他 ( )				円

## 3. 学業面

履修科目名	種類 <sup>ex.正規、聴講</sup>	単位数	単位互換認定申請の有無		
			有	<input type="radio"/>	無
1 昆虫学	聴講		<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	無
2 温室技術学	聴講		<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	無
3 園芸経済学	聴講		<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	無
4 品質学	聴講		<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	無

5 病理学Ⅰ	聴講			有	○	無
6				有		無
7				有		無
8				有		無
9				有		無
10				有		無

### 3-1. 授業科目の選択、登録方法

授業登録は、千葉大学学生ポータルのような個人ごと持っているサイトで行います。テストの登録もこのサイトを使って行います。名前が呼ばれる形で出席確認がある授業や、グループワークがある授業もあるため、早めに授業登録をしたほうがよいと思います。授業を受けて、テストを受けないという聴講という受け方もできます。自分の学科以外の授業も受けることができますが、授業時間が重なることが多いため注意してください。

### 3-2. 授業内容、方法に関して

私のクラスは、ほとんど同じ教室で午前中から午後まで授業がありました。ほとんどの学生が全ての授業を受けている様子です。先生が黒板の前に立ち、多くはスライドを使って授業が進められます。学生は30人ほどで、意見・質問が常に交わされるような活発的な雰囲気のあるクラスです。授業によってグループプレゼンや、フィールドワークがありました。グループプレゼンについては、5人ほどで与えられたテーマまたは、興味があるテーマで20分ほどのプレゼンを行います。個人でプレゼンをする授業もありました。授業後も質問を受け付けてくれるような先生ばかりでした。

### 3-3. 語学力について

授業はすべて英語で行われました。大学院生向けの授業ということもあり、専門用語が分からず苦戦しました。大学の先生の英語の発音は、聞き取りやすいと思います。スライドに重要事項を細かく書いてくださっている先生が多かったため、スライドを使って復習をすれば全体の流れはつかめると思います。しかし、聞き取れない部分も多かったため、会話だけではなく、授業を受けることを想定した英語の勉強をする必要があったと思います。

### 3-4. 図書館など学内施設について

キャンパス内に図書館がありますが、図書館を利用するためには事前に登録が必要なので学務の方にお問い合わせをし、登録をしなければなりません。試験前の勉強や、グループプレゼンの準備のために図書館を利用している学生が多いです。ほかによく利用した学内施設はカフェです。サンドイッチやパンのような軽食と飲み物を購入していました。授業前や授業間の休みに、コーヒーを飲んでいる学生が多く、私も一緒に利用していました。

### 3-5. その他

イタリア語が全くと言ってよいほど話せない中不安でいっぱいでしたが、担当教授や留学の担当の方がとても優しく、助けてくださりました。留学当初は、保険や授業等の登録が難しく大変でしたが、同じクラスの子が教えてくれて無事授業を受けられるようになりました。不安な時、分からない時、助けてくれる人は必ずいるはずなので、一人で悩むのではなく、声をかけてみるのが大切だと思います。

## 4. 生活面

### 4-1. 住居について

留学前に私が一番苦労したことは、住居探しです。4か月ほど前くらいから住居を探していたのですが、全く見つかりませんでした。留学先の大学が提携している寮、アパートを紹介してくれるのですが、高すぎて他のクラスメイトも利用していませんでした。ビザ申請に滞在先住所を書かなければならないため、最低でも渡航1.5か月前には住居を決め、住居に関する書類を受け取る必要があります。私は英語でやりとりができる「Uniplaces」というサイトで住居を見つけました。私の場合ですが、部屋が空いているか問い合わせをしてから、その返答がくるまで1週間ほどかかり、また、入居が決まっても書類が送られるまでとても時間がかかりました。しかし、渡航後1週間は部屋が空いていないと言われ、渡航後1週間分の住居を探しなおしました。ポーロニヤ在住の日本人コミュニティーや日本語で書かれたサイトなどを探し、なんとか見つけることができました。住居が途中で変更してしまうと、ビザの書類や、滞在証明書の申請時に、大変なのでできるだけ留学開始時から終了時まで滞在できる住居を探したほうがいいと思います。また、留学することが決まったらとにかく1番先に住居を探し始めたほうがいいと思います。

### 4-2. 食事について

朝と夜ごはんは家で食べるが多かったです。朝ごはんはパン、野菜、果物、ヨーグルト、夜ご飯はパスタやピザ、ごはんを食べていました。お昼ごはんは、カフェで買って食べることもありましたが、ほとんどの友達が簡単なお弁当を作って持ってきていたので、パスタやサラダなどをタッパーに詰めて持っていました。天気の良い日にはみんなで芝生の上でお昼を食べていました。外食はたまに友達とする程度で、ピザを食べることが多かったです。また、ジェラートがとてもおいしく、一度で2種類の味を選ぶことができるので、よく食べるにっていました。野菜や果物は日本と同じくらいか、日本より安かったのですが、肉類に関しては少し高かったような気がします。

### 4-3. インターネット環境、携帯電話について

大学内ではインターネットが使えました。滞在先でもインターネットは問題なく使えました。携帯電話については、SIMフリーの携帯電話を使っており、イタリアの携帯会社に現地でするSIMの購入に行きました。私はWINDというところで契約し、4週間で10ユーロほどかかりました。一般的なSIMはプリペイド方式で、毎月金額を支払い、定額以上使用すると追加で支払うという形でした。私は電話をほとんど使用しなかったため、追加料金を支払うことはなかったです。大学を出ると英語が通じないこともあるため、契約の際には事前に話したいことをイタリア語でまとめておくことをお勧めします。

### 4-4. 服装について

女性の服装では、スカートを履いている人をあまり見かけなかったです。全体的にシンプルな服装が多かったように思います。寒いのだとは思いますが、足を出すような服装はあまり一般的ではないのかもしれない。雪はあまり降りませんが、日本より寒かったので冬の時期に行かれるようでしたら、防寒具は欠かせません。

### 4-5. 健康管理について

毎日過ごすだけで、日本にいた時より疲れてしまっていたので、しっかり食べて寝ることを意識していました。食あたりなど、食べ物や飲み物が身体に合わなくて体調を崩すことはありませんでした。しかし、疲労と風邪で2度体調を崩してしまいました。風邪のような症状が出た時は、日本から持参した風邪薬を飲み、身体を温めて卵がゆを食べました。2度目に体調を崩したときは、一瞬意識を失って倒れてしまい、自分では対処できなかったため、大家さんの家に泊まらせていただき、数日間看病していただきました。頼れる大人はあまり近くにはいないと思うので、何かあった時のためにも大家さんと密に連絡をとっていたほうがいいと思います。

## 4-6. 保険、OSSMAの利用について

OSSMAと、保険はAIU保険を利用しました。AIU保険については、長期滞在向けで一番保障が手厚いコースにしました。高いですが、保険が一番保障の範囲が広いコースがよいと思います。

## 4-7. 課外活動について

クラブ等には参加していませんでしたが、留学生団体が主催するイベントに参加していました。クラスの友達以外とも交流でき、参加してよかったです。いくつかこのような留学生団体があり、同じ日本から留学してきた友達はsの団体が主催しているツアーに参加していました。値段も安く、案内してくれるので安心してツアーを楽しめたと話していました。留学生団体の会員に登録をすれば誰でも参加ができるため、会員になることをおすすめします。

## 4-8. 学外のコミュニティとの交流について

学外では、言語交換(Tandem)を通して知り合った友達と日本からの留学生の友達と仲良くなりました。言語交換とは、自分が話せる言語を教えたい人と、相手の話せる言語を学びたい人をつなげるサービスです。アニメや漫画きっかけで日本語を勉強したい学生もいるため、言語交換のコミュニティを探してみるとおもしろいと思います。私は学外のコミュニティともしっかりと交流したかったと思っているので、積極的に交流してみると色々な出会いがあると思います。

## 4-9. 日本から持参してよかったもの

<日本から持ってきてよかったと思うもの>

- ・風邪薬(多めに持ってきました。)
- ・卵スープなどインスタントスープ
- ・アクエリアス粉末
- ・カイロ
- ・湿布
- ・折り紙(ちょっとしたお礼に鶴などを折って、一言添えて渡していました。ミニレターとしても。)
- ・ウェットティッシュ(こちらでも買うこともできますが、高いらしいです。便利です。)

<日本から持ってくるべきだったと思うもの>

- ・調味料など(醤油、海苔、カレールーなど)
- ・日本酒(ホームパーティーなどのお土産に。こちらで買うと3倍程度しました。)
- ・箸(こちらで買うこともできますが、3倍程度するようです。)
- ・イタリア語の単語帳(文法書は持っていましたが、単語帳を忘れました。日本語で書いてあるテキストはこちらではほぼ手に入らないです。)
- ・日本語で書かれたガイドブック(観光用に)
- ・パスポートなど必要書類のコピー
- ・顔写真(滞在許可書用など)
- ・洗顔剤(洗顔剤が売っていませんでした。メイク落としを使った後はお湯で顔を流すのみらしいです。)
- ・洋服消臭スプレー(たばこや煙の臭いがコートについて、とても困りました。匂い系は外国で買うと失敗しやすい気がします。一度他の国で買って匂いが強すぎて失敗しました。)

## 4-10. 日本から持参したが不要だったもの

- ・服(荷物が多くなってしまうと思います。服は現地でも購入でき、買い物も楽しむことができると思うので、他の荷物との様子を見て調整したほうがいいと思います。)
- ・靴(靴もかさばると思います。履いている靴で十分で、予備の靴は必要なかったです。)

## 4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

一般的に挨拶の時、ハグをしてお互いの頬をくっつけながらキス音を出しますが、その人の性格や自分自身との関係性で少し挨拶の方法が変わるようになってきました。基本的には、ハグをして頬を右と左の2回くっつけます。キス音はあまり出さないことがありました。イタリア北部出身の友達は、北部ではあまりこのような挨拶はせず、握手をする時もあるよと言っていました。イタリア南部出身の友達は、パーソナルスペースが狭く、挨拶や日々のコミュニケーションも積極的な印象を受けました。特徴はあれど、人との快適な距離感は異なるので、相手の様子をうかがうことが一番大切だと思います。

## 4-12. 余暇の過ごし方

## 旅行

【サンマリノ】10月(2日間)約5000円  
 【フィレンツェ】11月(1日間)約1万円  
 【ベネチア】1月(1日間)約8000円  
 【イタリア中部旅行】2月(5日間)約4万円

その他 \* 気分転換やストレス発散法など。

公園が近くに数カ所あったので、気分転換に公園をよく訪れていました。また、その公園のそばで屋外販売の店舗が多くあったので、歩いて見回っていました。休日はショッピングにでかけ、好きなジェラートを食べたり、新しい道を通ったりゆったりとした時間を過ごすようにしていました。慣れない環境だったので大学から帰った時点で疲れてしまっていました。なので、帰ってからは一人で過ごせる時間を設けていました。同じくボローニャ大学に留学に来ている日本人の友達とたまにお出かけして、イタリア語の勉強をしたり、ゆったりお話ししたりしていました。キャンパスも違いお互い忙しいので、なかなか会えなかったですが、気分転換になりました。また、同時期にインドネシアに留学をしている友達とよく現状報告として、悩み事や楽しかった出来事などを連絡していました。似たような状況で悩みを相談

## 5. その他

## 5-1. 留学先大学について

私が通っていた農獣医学部は本キャンパスからバスで30~40分ほど離れていました。手続きをする留学生課は本キャンパスにあります。本キャンパスは街と一体となっており、とても広いですが、農獣医学部のキャンパスはあまり広くなく、自然があり街から離れたところに建っています。キャンパスがコの字型で、その中心部には芝生が広がっており、お昼休みには芝生の上でご飯を食べ、キャッチボール等で遊ぶ姿が見られました。素敵なキャンパスで私はとても好きでした。留学生課の方々もとても優しく、分からないことは丁寧に教えてくださりました。私が入ったコースは、国際科のようなコースで授業は全て英語、クラスの半数がイタリア出身で残りの半数は、ヨーロッパ出身の留学生、アジア出身の留学生がいました。授業にはフィールドワークがあり、工場や大学内の研究室に見学に行きました。また、プレゼンテーションを行う授業が多く、主体性を大切にされた大学だと感じました。

### 5-2. 留学希望者へのアドバイス

留学前は何に対しても不安でいっぱいだと思います。私も留学前から不安で本当に大丈夫だろうかと悩む毎日でした。不安を除くためにできることは精一杯行い、準備や相談をすべきだとは思いますが、しかし、未来はどうなるかは分からないので、100%の不安を除くことはできないものだと考えています。なので、ある程度自分ができることをこなしたら、後は不安を乗り越えて「とにかくやってみよう！」と一歩踏み出すことも大切だと思います。不安だから挑戦できないのが、一番もったいないように感じます。なので、少しでも「留学行ってみたいな」という気持ちがあれば、その気持ちを大切にして、「無理だろう」と行動を起こす前から、自分で自分を否定しないことができれば素敵だなと思います。留学前の準備については、とにかく早く住居を決めてビザ申請をすることをおすすめします。手続き等が間に合うかの心配は最小限にしたいので、早めの準備が欠かせないと思います。

### 5-3. 留学を終えて

留学はあっという間のように感じました。もっと色々な場所を訪れ、色々な人と出会い、色々な体験をしたかった、もっとイタリア語を話せるようになっていたかったなど後悔はあります。しかし、このような後悔を感じたのも、それらの素晴らしさを実感できたからだと思います。今回の留学を通して、不安でなかなか行動に移せない自分を変え、興味があったらとにかくやってみることができるようになりました。留学先では特に、待っていてばかりで自分から助けを求めないでいると何も起こりません。また、ほとんど全てのことが初めてでよく分からず、不安です。そのため、不安だからできないと思っていたら、何も動けなくなってしまいます。よって、不安でも恐れず、やってみようという行動してみるチャンスが多く、それを重ねているうちに、「怖くなんてないや。やってみた方が楽しいじゃん。」と気づくことができました。そのおかげで留学からかえって来てから、元々自分が興味があった「教育」に関する団体の活動に積極的に参加し、自分がやりたいことを見つけることができました。もし、誰も知り合いがいなくて、教育のこと分からないからと怖いと思って動くことができなかつたら、自分の心が動かされ、「やりたい！ワクワクする！」ことに出会えなかったと思います。また、留学中に受けた授業にも影響され、自分のやりたいことに向かって動くきっかけになりました。元々教育に興味は持っていたものの、農業を専攻しており、塾講などのアルバイト経験も無く、「教える」ことも得意では無かったので、一歩踏み出すことができていませんでした。しかし、留学中に受けた授業で、農業を教育現場で利用し、子どもが自分で考えて行動するための場を作っている